

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組
番号
名前

【同音異義語の漢字を文脈に即して正しく使う問題】

1 次の文の _____ のカタカナを漢字で書く場合、正しいものをあとの1～4の中から、それぞれ一つえらびましょう。 **レベル3**

(1) シュウ中して勉強する。

- 1 週 2 習 3 終 4 集

(2) 暗くなる前に、早くカエル。

- 1 返る 2 買える 3 帰る 4 代える

【漢字の音読みと訓読みを理解する問題】

2 次の _____ 線部の漢字の読み方を書きましょう。また、「音」と「訓」のどちらの読み方か、書きましょう。 **レベル7**

(1) 広間に集まる。

読み方

音・訓

(2) 広大な土地。

読み方

音・訓

【文の構成を理解する問題】

3 次の文の主語・述語を _____ 線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。 **レベル7**

(1) きのう わたしは 友達と 児童館で 遊んだ。

主語

述語

(2) 水族館で 見た 魚には、青く 大きな ひれが あつた。

主語

述語

【文と文のつながり方と接続詞の働きを理解する問題】

4 次の□の中の文を、意味を変えずに、二つの文にします。

□に入る言葉を、あとの□の中からえらび、二つの文にして書きましょう。

レベル6

雨がふりそうな天気だが、かさを持っていない。



れい たくさん走ったので、足がいたかった。

たくさん走った。

だから

足が痛かった。

Two large empty rectangular boxes for writing the answer.

だから つまり しかし また

【指示語の役割を理解する問題】

5 次の文の□は、何を指していますか。文章中より書きぬきましょう。

レベル6

近所のおばさんが、水玉もよりのワンピースを作ってくれた。次の日、わたしはそれを着て、友達の家に遊びに行った。

Large empty rectangular box for writing the answer.

【反対の言葉を理解する問題】

6 □の言葉と反対の意味の言葉を、書きましょう。

レベル5

電車が動く。

Large empty rectangular box for writing the answer.

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	模範解答

【同音異義語の漢字を文脈に即して正しく使う問題】

1 次の文の _____ のカタカナを漢字で書く場合、正しいものをあとの1～4の中から、それぞれ一つえらびましょう。 **レベル3**

(1) シュウ中して勉強する。

- 1 週
- 2 習
- 3 終
- 4 集

4

(2) 暗くなる前に、早くカエル。

- 1 返る
- 2 買える
- 3 帰る
- 4 代える

3

返る⇨もとにもどす 変える⇨今までとちがったものにする
 帰る⇨もとの場所へもどる 代える⇨あるものに、ほかのものの役目をさせる

【漢字の音読みと訓読みを理解する問題】

2 次の _____ 線部の漢字の読み方を書きましょう。また、「音」と「訓」のどちらの読み方か、書きましょう。 **レベル7**

(1) 広間に集まる。

読み方	読み方
ひろま	ひろま
音・訓	音・訓
訓	音

(2) 広大な土地。

読み方	読み方
こうだい	こうだい
音・訓	音・訓
音	訓

中国から入ってきた発音を元にした読み方が「音」です。
 もともと日本にあったことばに漢字を当てはめた読み方が「訓」です。

【文の構成を理解する問題】

3 次の文の主語・述語を _____ 線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。 **レベル7**

(1) きのう わたしは 友達と 児童館で 遊んだ。

主語	主語
2	5
述語	述語
5	2

(2) 水族館で 見た 魚には、青く 大きな ひれが あった。

主語	主語
6	7
述語	述語
7	6

主語は、「だれが(は)」「何が(は)」に当たることばです。
 述語は、「どうする」「どんなだ」「なんだ」に当たることばです。

【文と文のつながり方と接続詞の働きを理解する問題】

4 次の□の中の文を、意味を変えずに、二つの文にします。

□に入る言葉を、あとの□の中からえらび、二つの文にして書きましょう。

レベル6

雨がふりそうな天気だが、かさを持っていない。



れい たくさん走ったので、足がいたかった。

たくさん走った。

だから 足が痛かった。

雨がふりそうな天気だ。

しかし

かさを持っていない。

だから つまり しかし また

だから 前の文から予想される文が次に来ることを表す。
つまり 前の文についての説明を表す。

しかし 前の文と反対になるような文が次に来ることを表す。

また 前の文に、後ろの文をつけくわえることを表す。

ここでは、「雨がふりそうな天気」に対して「かさを持っていない」と反対の内容が続くため、「しかし」を用います。

5 次の文の□は、何を指していますか。

文章中より書きぬきましょう。

レベル6

近所のおばさんが、水玉もよりのワンピースを着て、友達の家遊びに行った。

こそあど言葉は、文章中の言葉を指し示すときにも使います。ここでは「それ」に「着る」が続くため、直前の文の「水玉もよりのブラウス」を示していると分かります。

水玉もよりのワンピース

【反対の意味を理解する問題】

6 □の言葉と反対の意味のことをばを、書きましょう。

レベル5

電車が動く。

止まる

反対の意味の言葉にはいろいろな組み合わせがあります。

例 「上る」と「下る」

「行く」と「帰る」